

# 流通とSC・私の視点

2021年12月30日

視点(2444)

SCの近未来の仮説!!

(SC理論編)

SCは第1期「1970～1995年のCSCの時代」から第2期「1996～2020年の多核モール型RSCの時代」を経て、第3期「2021～2045年のオンラインSC（ECモール）の時代」へと進みます。

## (1) 2035年まで日本経済がゼロサムの場合

新陳代謝の繰り返しで“新”が10%に対して、“陳”も10%のプラマイゼロの経済の場合を仮定

①現在の小売・飲食の売上高（小売150兆円＋飲食15兆円＝合計165兆円）

	金額	%	備考欄
リアルの小売・飲食売上高	152兆円	92%	2019年の統計
オンラインの小売・飲食売上高	13兆円	8%	電子商取引の統計より
合計	165兆円	100%	

②現在のSCの売上高

	金額	%	備考欄
リアルのSCの売上高	32兆円	80%	2019年SC売上高
オンラインのSCの売上高	8兆円	20%	2020年の推計データ
合計	40兆円	100%	小売・飲食全体の24.2%

③近未来の小売・飲食の売上高構成

	2020年	2035年	%	2035年/2020年比	備考欄
リアルの小売・飲食売上高	152兆円	107兆円	65%	△30%	電子商取引 8%→35% の4.4倍。
オンラインの小売・飲食売上高	13兆円	58兆円	35%	4.4倍	
合計	165兆円	165兆円	100%	1.0倍	電子商取引 35%と仮定

④近未来のSCの売上高構成

	2020年	2035年	%	2035年/2020年比	備考欄
リアルのSCの売上高	32兆円	23兆円	40%	△30%	小売・飲食全体の35% となる
オンラインのSCの売上高	8兆円	35兆円	60%	4.4倍	
合計	40兆円	58兆円	100%	1.45倍	

⑤結論

既存のリアルのSCの売上高は30%の減少（32兆円→23兆円）となり、その間に新型SCが進出するので、伝統的SCは50%減少となります。

## (2) 2035年までの日本経済が毎年2.5%の成長の場合

新陳代謝の繰り返しの中で“新”が12.5%に対して、“陳”が10%の実質2.5%の成長を仮定

①毎年2.5%の成長（小売・飲食の売上及びGDP）と仮定すると小売・飲食の売上高は現在の1.4倍の239兆円（165兆円×1.45倍）となり、GDPも782兆円（540兆円×1.45倍）となります。

②その結果、小売・飲食の近未来の売上高は次の通りです。

	金額	%	備考欄
リアルの小売・飲食売上高	155兆円	65%	
オンラインの小売・飲食売上高	84兆円	35%	239兆円×35%
合計	239兆円	100%	

③さらに、SCの近未来の売上高は次の通りです。

	金額	%	備考欄
リアルのSCの売上高	34兆円	40%	小売・飲食全体の35% となる
オンラインのSCの売上高	50兆円	60%	
合計	84兆円	100%	

毎年2.5%の成長があれば電子商取引の中でもリアルSCの売上高は現在と同率の売上が可能です（ただし、実質30%の減少）。

## (3) 参考までにSC以外の過去の業態の売上高は次の通りです。

①GMSは20%減（非食品は40%減）      ②百貨店は40%減      ③商店街は70%減

④アパレルは35%減      ⑤CSCは60%減

(株)ダイナミックマーケティング・パートナーズ  
会長・六車流研所長 六車秀之